

(11) 沖縄



沖縄地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 観光は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は極めて厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〃は上方に変更、〃は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

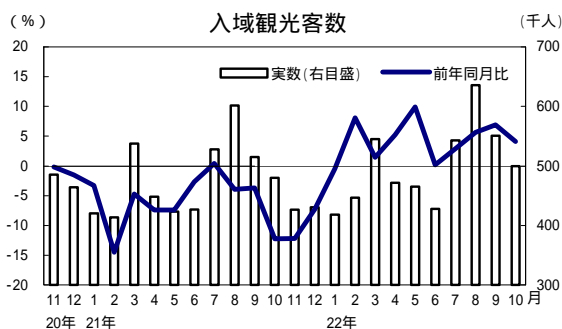
	前回(平成22年8月)	今回(平成22年11月)	
住宅建設	大幅に減少	おおむね横ばい	

1. 観光及び企業動向

(1) 観光は緩やかに持ち直している。

入域観光客数のうち、国内客については、8月は前半にインターハイ開催による団体需要があったことや後半は家族旅行を中心に好調だったこと、9月は例年7~8月に需要の多い個人旅行が9月にシフトしたことなどにより、特に東京を中心に送客数が伸びた。10月は個人旅行や団体旅行共に順調に推移したため、前年を上回った。外国客については、クルーズ船の寄港回数がほぼ前年並みだったことや、台湾などからのチャーター便の運航があったことなどにより、前年を上回った。

主要ホテルの客室稼働率は、那覇市内ホテル、リゾートホテルともに前年を上回っている。



入域観光客数等の動向

(単位:千人、%)

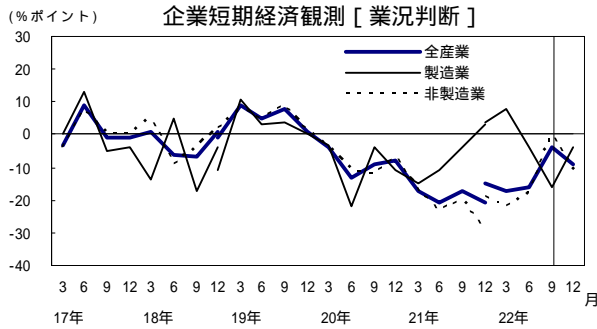
	21年10-12月	22年1-3月	4-6月	7-9月
入域観光客数	1,336	1,410	1,365	1,730
(前年比)	10.7	2.9	5.1	5.1
ホテル稼働率	61.2	71.1	65.8	81.3
(前年差)	10.5	1.0	0.2	6.3

(備考) 1. 入域観光客数は中総県観光商工部調べ。

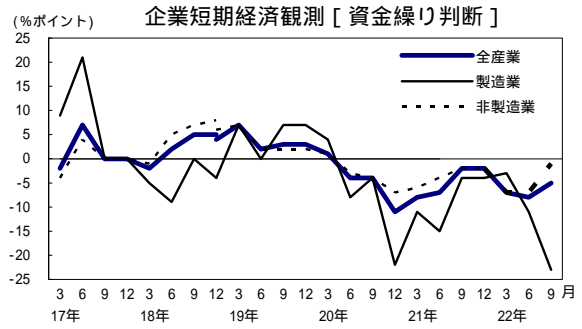
2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。調査対象は43ホテル。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

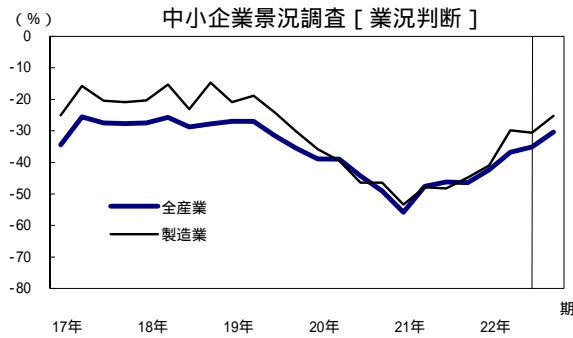
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年12月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。
九州(含む沖縄)地区のDI。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

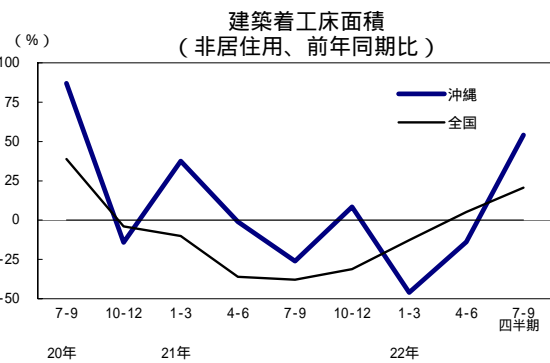
「公共工事は校舎新築などにより前年増、民間工事も新設住宅により前年増であるが、ウエイトの高い賃貸住宅及び分譲住宅が低調であることから、全体では前年を下回っている(窯業・土石製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 22年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績見込み	22年度計画
全産業	28.8	27.8 (4.9)
製造業	44.9	8.3 (4.2)
非製造業	25.3	30.9 (5.1)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。石油・電力を除く。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

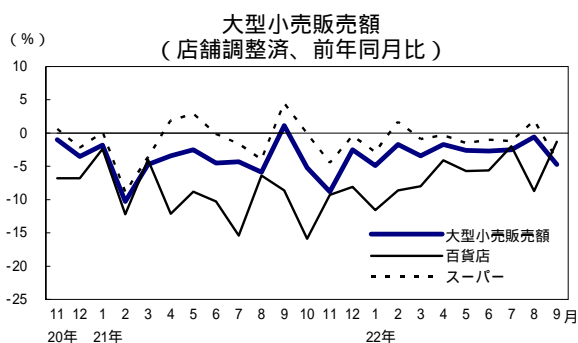
百貨店販売額、スーパー売上高

百貨店は、7月は旧盆のギフト需要の前倒しによる食料品の好調などにより、前年比減少幅が縮小した。8月は旧盆のギフト需要の一部が7月にシフトしたことから食料品が前年を下回ったほか、台風通過に伴う天候不良があったことなどから、前年比減少幅が拡大した。9月は大型催事効果などから食料品や身回品が好調だったことなどにより、前年比減少幅は縮小した。

スーパーは、家電製品を中心に住宅関連商品等が好調だったものの、単価下落の影響などにより前年並みとなった。

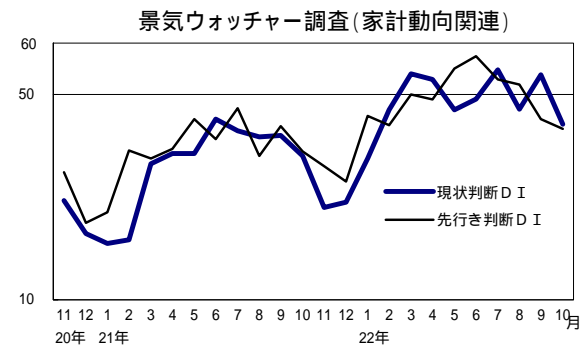
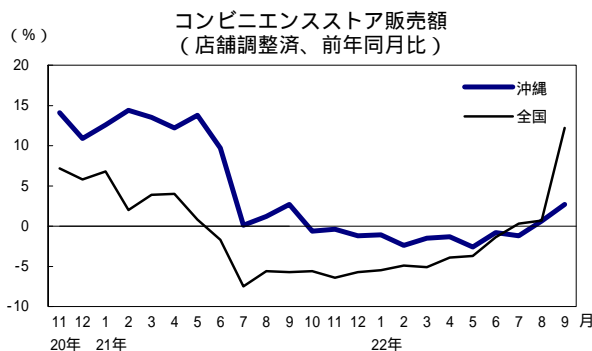
景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「たばこ増税後は予測通りの売上推移となっている。たばこの購入客が減った分、ドリンクやライターなどを中心に影響を受けている。たばこも売価の低い1日3級たばこへの移行が顕著にみられる(コンビニ)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	21年10-12月	22年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	5.3	3.4	2.4	2.6
百貨店	10.8	9.5	5.2	4.1
スーパー	1.6	0.9	1.0	1.0
乗用車	12.5	24.3	35.7	14.6
景気ウォッチャー	31.7	46.2	49.7	51.9

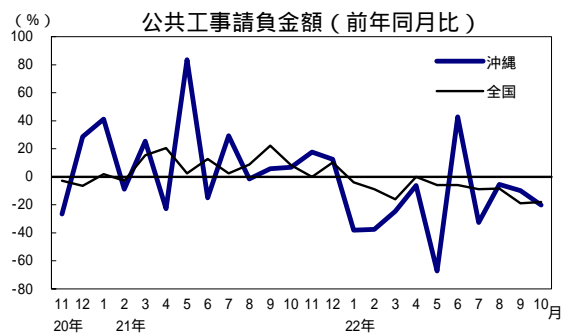
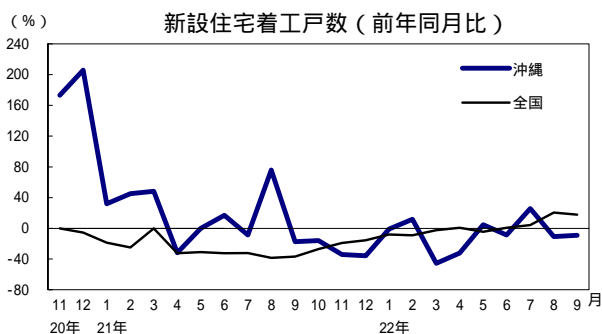
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。百貨店、スーパー、コンビニは日本銀行那覇支店調べ(いずれも既存店)。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

分譲が前年を下回ったものの、持家や貸家が前年を上回ったことから全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度を下回っている。

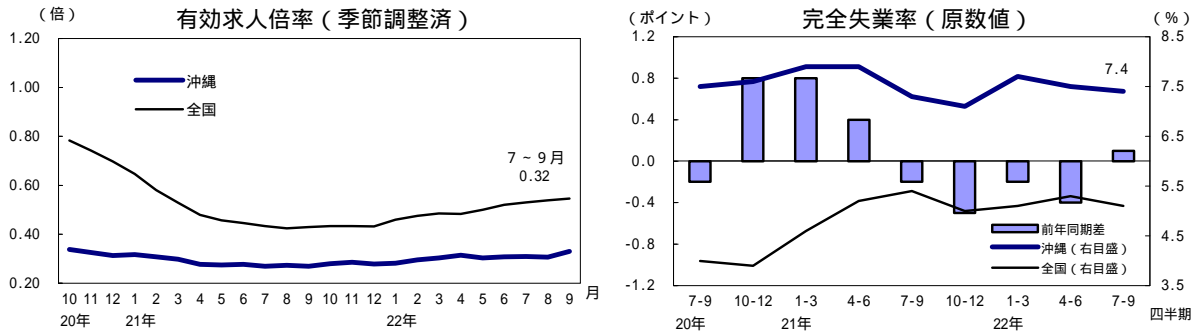


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は極めて厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期とほぼ同水準となっている。



(備考) 沖縄県の完全失業率は、沖縄県「労働力調査」より算出。

景気ウォッチャー調査 (9月)[雇用関連(現状)]

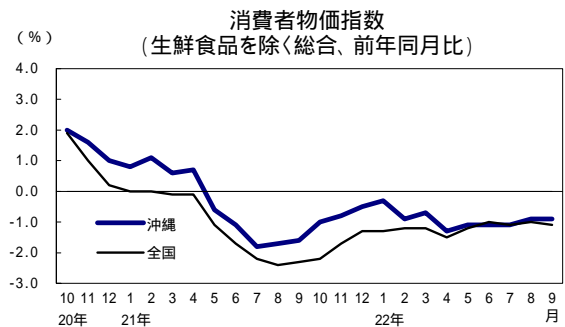
「求人数において、あまり変化は無い。派遣依頼は引き続きある程度はあるが、新規の依頼が伸びない(人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年10-12月	22年1-3月	4-6月	7-9月	22年10月
倒産件数	13	10	12	14	5
(前年比)	38.1	58.3	45.5	12.5	150.0
負債総額	45	21	13	57	7
(前年比)	83.7	77.7	80.8	32.8	52.1



景気ウォッチャー調査 (10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・県内全体で見ても、来客数は前年比で5%以上減少している。低単価での集客が一段落したと見受けられる(ゴルフ場)。

<先行き>

・11月末から新商品が順次発売されるため市場に活気が出る。特に話題のスマートフォン系の発売が多く、それ目当ての外国人の新規契約と日本人の機種変更が増えるとみられ期待が持てる(通信会社)。

